

AIロボで農業省力化



除草剤を散布する鈴木さんの後ろを、大型のタンクを載せて自動で走るアダム＝豊橋市石巻萩平町で

自律走行 除草剤搬送など活躍

農作業の負担軽減につなげようと、東北大発のスタートアップ(新興企業)の「輝翠」(仙台市)が、豊橋市や同市の柿農家などと協力し、農業用電動ロボット「Adam(アダム)」を商品化した。人工知能(AI)を活用し、積み荷を搭載し自律走行が可能で、現場の農家の声を反映。同社は国内外でアダムの販売を始めている。

(小山豪)

同市石巻萩平町にある農園「百年柿園ベル・ファアム」の柿畑で8月26日に行

草剤散布作業。荷台には除草剤が入った大きなタンクが積み、車体のカメラで散布作業をする人を認識。その後ろをまるで「ペット」のように自動でついていった。噴霧器を背負う従来の方法と比べ、除草剤を補充する回数が大幅に減り、作業時間は半分に以下に。体力的な負担も軽減できる。

アダムは長さ約2.5m、幅約1.3m、高さ約1.5m。最大300kgの荷物を運ぶことができ、除草剤の搬送のほか、収穫した作物や剪定枝の運搬などの活用を想定している。人に追従するだけでなく、GPSを使って指定区間を自律走行できる。

輝翠のブルーム・タミルCEO(31)は元々、東北大で月面探査機の技術を研究していた。しかし農業に新

しい可能性を感じ、「農地も月面と同じようにデコボコしている。学んだことを生かせば、農業の効率化にも役立つのでは」。起伏があっても安定して走れる農業用ロボットの開発を始めた。

東北の新興企業 商品化 豊橋市や市内の柿農家が協力

同社と豊橋市は県の事業を通じて、4年ほど前からやりとりを始めた。2023年度には、農業用新技術を競う市の「アグリテックコンテスト」で入賞。ベル・ファームの鈴木義弘代表(53)らの協力を得て、開発や試作を進めた。

タミルさんは「いろいろな農家と話をし、フィードバックできた」と振り返る。農家の声を受け、手袋で操作できるよう、タッチパネルだけでなくあえて物理的なボタンを設置。小型化にも取り組む。鈴木さんは「さまざまな使い方ができる可能性を秘めたロボット」と期待する。

アダムは1台税込み27.5万円で販売。石油製品販売の「マルシメ」(豊橋市下五井町)が三河地域と静岡県遠州地域の農家を対象にシェアリングサービスを展開する。

県内版

おたまじゃくし

「ナポリタンでは？」 姉 それって、スパゲティのこと？
「テレビで世界史の講義が流れています」
妹 ナポリオンっておいし
いよね！
たかいえ・ひまり(7歳)、
ゆうな(9歳) 〓知立市、祖母・山田みづる

「通じない？」
ひ孫 ばあば、でんち
曾祖母 うんち？ トイレ
のスイッチ届く？
ひ孫 単3、どい？